

## 2025. 7. 12 遊びと関連した体験を通して、さらなる広がりへ

昨日、年中児は足羽山にある福井市自然史博物館へバスに乗って行きました。

5月後半から6月にかけてツバメとの偶然な出会いから、いろいろな遊びや表現を通してツバメを好きになってきた子供たち。そこからツバメの巣立ちと同時にグミの実を食べにくるヒヨドリとの出会い。さらにはツバメの巣に居座るスズメとの出会いなど鳥の世界を子供たちなりにひらいてきました。

いろいろな鳥との出会いの中で、専門家に聞いてみようということで、福井市自然史博物館の鳥博士である出口先生とオンラインでつなぎ、いろいろ教えていただきました。「次はそっちへ行ってみたいな!」「鳥のはく製も博物館にはいっぱいあるよ!」ということで、急遽バスを手配し、計画を立て、昨日の園外保育にいたりしました。

自然史博物館につくと、「出口先生!!!」と子供たち。

保育室にも顔写真と名前がいつも掲示してあったので、毎日会っているような感覚。

そして、「フクロウもいるよ!」とたくさんある鳥のはく製を喜ぶ子供たち。「あそこにヒヨドリ!」「ツバメの本があったよ!」と鳥について興味が膨らんでいる子供たちにとっては、博物館内にある展示や環境が面白くて仕方ありません。全体でも個別にも出口先生に鳥のことをいろいろとその場で教えてもらいました。

さらには、ニジイロクワガタやコーカサスなど飼育しているコーナーもあります。カブトムシも園で孵化し、毎日触っている子たちは、いつも見るできないカブトムシやクワガタを見て、「わー!すごい!」とヒーローを見るような目で食いついています。学芸員さんが生きているヘラクレスオオカブトに触らせてくれて、「ツルツルしている!」「めっちゃ大きいね!」と図鑑で見るのとはまた違う質感とスケール感を味わいます。

またウミガメ大好き女の子は、ウミガメの骨格があり、そこで大興奮!先日、ウミガメの帽子や手、甲羅を作ってなりきって遊んでいた彼女にとっては、また違う視点でのウミガメとの出会いに心が動きます。

他にも玄武岩や黄鉄鉱などいろいろな鉱石や石などの掲示や蝶やトンボなどの昆虫標本、鹿のはく製、生き物塗り絵コーナーなど新たな出会いにもつながっていくような空間でもありました。ここでの出会い、感動体験が子供たちにとって新たな世界への糸口にもなったかもしれません。

そのあとは、同じ足羽山にある足羽山動物園へ行きました。

そこでは、カピバラが待っていました。子供たちは最初はおそろおそろ近づき、カピバラの背中をなでます。その穏やかな雰囲気にも子供たちも安心して、そのぬくもりや手触り感をたのしんでいました。

「カピバラの帽子作ってみたいな!」と女の子。

あとは、雉のような青い鳥もいれば、目の前を鴨が泳いでいます。外へ出ればインコやオウムを含め、いろいろな鳥との出会いもありました。「羽が青いよ!きれいだね!」と子供たち。

「あそこに『なこちゃん』と一緒にカメがいたよ!」と園のナコちゃんと同じミシシippアカミミガメもいました。園生活とのつながりも感じ、親近感がさらにわいていきます。

最近ジャングル体操を踊っていたので、動物へ興味も広がっている子供たち。

昨日の動物園での経験がまた子供たちにとって刺激になり、感動した経験が遊びの広がりにつながっていくのかもしれませんが。でもそこには、そこで出会ったものを写真として掲示したり、園環境としてつなげたりしながら、今回の体験をどう味わいなおすか、新たな遊びのきっかけや遊びの広がりはどう子供たちの文脈でつながっていくのか。遊びの展開の可能性をどう支えるのか。やってみないとわかりませんが、そこに価値を感じながら、いろいろな手立てをともに構想し、その広がりを楽しんでいきたいと思います。

